

第2回

中学生中国文化体験派遣事業 報告書

友好都市・浙江省奉化市との交流事業



期 日 平成 19 年 8 月 17 日 (金) ~ 8 月 22 日 (水)
主 催 入間市・入間市国際交流協会

<http://www.city.iruma.saitama.jp/i-society>

目 次

●訪問団員名簿	1
●日程表	2
●お世話になった方々	3
●訪問団員報告		
○中国に行って 水上 千夏 4・5
○中国に行って 川合 彩香 6・7
○中国に行って 黒石みなみ 8・9
○異文化に触れて 伊藤 瞳 10・11
○中国に行って 望月 美紀 12・13
○中国の思い出 大井 由夏 14・15
○中国の地に立って 廣瀬 悠里 16・17
○中国に行って 荒川 真帆 18・19
○貴重な体験 河野 靖子 20・21
○中学生だからこそ 田代 高久 22・23
●写真集	24~26
●お別れ会	27

日 程 表

(8月17日(金)～22日(水))

期 日	スケジュール	備 考
8月17日 (金)	午前 4:45 市役所正面玄関集合 5:00 市役所出発 8:20 成田空港着 10:20 成田空港離陸 午後 0:35 杭州空港着 夕方 歓迎会	全日空 929 便
8月18日 (土)	午前 溪口見学 午後 藤頭見学	
8月19日 (日)	中国家庭生活体験 ホストファミリーと過ごす	
8月20日 (月)	午前 奉港中学校・市立図書館・奉化高校見学 午後 各自自宅に戻り、荷造り 夕方 お別れ会	
8月21日 (火)	午前 6:15 奉化大酒店集合 9:00 杭州駅着 9:55 杭州駅発 11:15 上海南駅着 午後 昼食(緑波廊酒楼)、 豫園・外灘・新天地・ 南京路見学 午後 6:50 夕食(海鷗膀) 8:30 ホテル(虹橋賓館)着	新幹線
8月22日 (水)	午前 9:55 ホテル発 11:15 上海浦東空港着 午後 1:10 上海浦東空港離陸 5:00 成田空港到着 9:30 市役所正面玄関着	全日空 920 便

入間市中学生中国文化体験派遣事業 被派遣者名簿

No	氏 名	性別	学 校 名 等	担 当	友達の名前
1	水 上 千 夏	女	藤沢中学校 3年	お土産	王 叶婷
2	川 合 彩 香	女	向原中学校 3年	リーダー	謝 炯滢
3	黒 石 みなみ	女	藤沢中学校 3年	お土産	王 璐
4	伊 藤 瞳	女	藤沢中学校 3年	サブリーダー	朱 雪文
5	望 月 美 紀	女	東町中学校 2年	お別れ会	唐 璿
6	大 井 由 夏	女	東町中学校 2年	お別れ会	毛 天添
7	廣 瀬 悠 里	女	東金子中学校 2年	お別れ会	王 滄晶
8	荒 川 真 帆	女	豊岡中学校 2年	あいさつ	周 貝貝
9	河 野 靖 子	女		通 訊	
10	田 代 高 久	男	自 治 文 化 課	団 長	

お世話になった方々



奉港中学校・何校長先生



奉港中学校・李先生（左）と仇先生（右）



周副市长（何校長先生と）



奉化市人民政府の吳亜芬さん（左端）と朱薇芬さん（右端）

お別れ会

(2007年8月20日(月) 奉化大酒店)

司 会 : 奉化市 入間市
マオティエンティエン 毛天添
望月 美紀

両市中学生の出し物

No	出し物	備 考
1	合唱 「愛唄」 「世界に一つだけの花」	入間市 (全員)
2	横笛合奏 「喜び」	奉化市 シェチョンイエン ジョウベイベイ (謝 炯 滢・周 貝 貝)
3	バトン 「アメリカンウォーターフロント & アンダー ザ ミー」	入間市 (川合彩香・伊藤瞳)
4	団体舞踊 「森林幻想曲」	奉化市 (全員)
5	コーラス独奏 「月の下のホウキダケ」 書道実演 「真棒朋友」	奉化市 (王 璐) 入間市 (望月美紀)
6	バレエ 「海賊のバリエーション」	入間市 (大井由夏)
7	琴独奏 「豊作の喜び」	奉化市 (王 滄 晶)
8	団体舞踊 「よさこいソーラン」	入間市 (全員)
9	合唱 「ジャスミンの花」 「桜」	奉化市 (全員)



中国に行って

藤沢中学校3年 水上 千夏

私は、中国に行って良かったなと思いました。はじめは友達にさそわれて行くと思い、期待と不安でいっぱいでした。

中国に行つての体験、感じた事、考えた事は、沢山ありました。

奉化市に着き、初めて中国の中学生に会つた時、とてもドキドキしました。

でも言葉は通じないけれど、とても優しく話しかけてくれて、すごく安心しました。

パーティーでは、中国の料理が沢山並べられました。私のペアの王叶婷^{ワン イェティン}は中華料理を英語で一生懸命教えてくれました。中国の中学生はみんな英語がペラペラでビックリしました。



水上千夏 & 王叶婷^{ワン イェティン}

みんなとの食事もあったという間におわり、叶婷の家に向かいました。家は、とっても大きく私用の部屋とお風呂が用意されていました。お父さんとお母さんは私をとても優しく出迎えてくれました。

次の日、中国の歴史的建造物などの見学に行きました。中国の建物はとても大きくてはじめて知る事ばかりでした。景色もとてもキレイで自然がたくさんありました。

夜は、ホームステイ先の家が近い川合さん達と買い物にいたりとても楽し

かったです。そして、中国は物価がとても安くてビックリしました。

中国の食事で私がビックリした事は朝食から脂っこいものが出た事です。餃子や、小籠包など……。でもすごくおいしい物ばかり作ってくれました。カニや、海老なども食卓に出されました。日本人は普通、殻を割って食べるけれど、中国の人たちは殻ごと口の中に入れその後、殻を吐き出して食べていた事もおどろきました。

昼食では、餃子を一緒につくりました。初めは上手く作れなかったけれど、とても優しく教えてくれて叶婷と沢山作り、一緒に食べました。

奉化市最後の日には、みんなでお別れ会をしました。よさこいソーランをおどったり、歌をうたったり、ご飯を一緒に食べたり、本当に楽しいパーティーとなりました。

翌日、私達は上海に向かいました。上海に着き「豫園^{ヨエン}」と言う場所へバスで向かいました。私は、上海がとても貧富の差がはげしいと言う事は知っていたけど初めてみる光景にビックリしました。小さい子供を抱えた親や、足に障害のある人などが道端でお金を恵んでもらっていました。

私は今ある生活の大切さを学びました。中国では本当に良い経験が出来ました。文化にふれ合い、奉化の中学生とも交流を深める事が出来ました。

来年、叶婷が日本に来る時には、日本料理や日本の文化などたくさんの事を知ってほしいと思います。

中学生最後の夏の良い思い出となりました。



藤頭で鳩と

中国に行って

向原中学校3年 川合 彩香

私は中国に行ってたくさんのことを学びました。

1つは交通ルールについてです。

中国の人は運転があらくてどんどん割り込んで入ってくるので、見てるこっちが怖かったです。奉化市に着いたら、車よりもバイクの方が多かったと私は思いました。中国では、日本ではいけない3人乗り、自転車では2人乗りを普通にしていました。中国では許されることだそうです。「国によって全然違うのだな」と思いました。

2つ目はトイレについてです。

これは私的に一番ビックリしました。一部の家庭やホテルを除き、使ったトイレットペーパーを流さないで、そばにおいてある専用のゴミ箱にその紙を捨てます。さらに中国の人は使用後流しません。これは大変ビックリしました。

3つ目は食事についてです。

どれも甘い食べ物ばかりでした。例えばスープです。薄味が甘い味でした。飲み物は、牛乳やお茶に砂糖が入っていました。どうしても私は牛乳やお茶を飲むことができなかったのがホストファミリーのお母さんが日本の「飲むヨーグルト」を買ってきてくださいました。うれしかったです。

朝は、中国らしいワンタンスープや餃子や肉まんや小籠包などを食べました。とても美味しかったです。



川合彩香 & シェチョンイェン 謝炯滢

奉化市での一番の思い出は、お別れ会です。

中国の中学生には、笛・琴・歌を披露してもらいました。とても上手でした。

私達は、個人演技と歌と「よさこいソーラン」をしました。個人演技で私と伊藤さんはバトントワリングをやって2回も踊ることができました。中国にはバトンというものが無いらしくとても皆さんに喜ばれました。嬉しかったです。

ホストファミリーの方々とお別れをして上海について豫園に行きました。最初にお昼を食べて、その後は買い物。3年生グループで回りました。私達は値切りしてから物を買っていたので安く物が手に入りました。一番値切ったのは120元から20元に落としたのが最高です。はっきり言って楽しかったです。

今回の体験は、楽しいだけのものではありませんでした。けれど、こういう場ではどんどん積極的になれば、やりたいこともできるし自分の気持ちも相手に伝えられます。それが今回の体験をとおしてわかったことだと思います。

中国に行けて本当に良かったと思います。

ありがとうございました。



お別れ会で



奉港中学校にて

中国に行って

藤沢中学校3年 黒石みなみ

私は、今回初めて中国に行きました。

中国に行ってまず最初に思った事は、道路などの交通の事です。空港から奉化市までバスで移動するときに道路がすごいガタガタでびっくりしました。あと、信号もなくて道を渡る時は、車が来てない時とかに行くという感じだったので、すごく危ないと思いました。

移動も車が多かったけど、人力タクシーというのがあって、人力車の自転車バージョンでした。それは、1台に大人が2人から3人乗れるようなものでした。

食べ物も日本とは全然違いました。レストランに連れてってもらった時に、うさぎの肉が出ました。今まで、うさぎの肉を食べた事はなかったので少し嫌だったけど、食べてみたら結構おいしかったのでびっくりしました。中国料理って聞いて思っていたのは、ラーメンとか肉マンとかだったけど、そういう食べ物は全然出ませんでした。でも、小籠包が出てとてもおいしかったです。

食事の事も色々心配はあったけど、一番心配してたのが言葉が通じないという事でした。初日に、ホームステイ先の^{ワンルー}王璐と2人だけになった時に言葉が通じなくて大変だったけど、英語とか漢字を紙に書いて説明したりジェスチャーしたりして表していたら少しずつ分かってきてくれたので良かったです。



^{ワンルー}王璐 & 黒石みなみ

買い物も、日本のスーパーとはやっぱり違っていました。

物価も、すごく安かったです。飲み物もコーラが3元から5円で売っていて、日本円で54円から90円なのでとても安かったです。小物を買う時に、日本では値切ったりしないで買うけど、中国人は値切っていたのでそういう所も違うんだなあ、と思いました。

中国で困った事は、水道水は飲んだりしない方がいいという事と、大きなスーパーや空港以外の売店などでは食べ物は買わない方がいいという事でした。水道水が飲めないと、歯みがきもミネラルウォーターでやらなきゃいけないのが大変でした。



藤頭の足踏み水車

上海は、奉化市より貧富の差が激しくてびっくりしました。バスから降りたら、おばあさんやおじいさん達がコップを持って近づいてきました。お金を下さい、と言って来ていました。私は、貧富の差は激しいと知っていたけど、ここまで激しいとは思っていなかったし、少し怖かったです。公園でもたくさんの方がコップを持っていました。今まで見た事もなかったので、本当にたくさんの方がお金や住む所がなくて大変なんだな、と改めて思いました。

私には、中国に行って知りたいと思っていた事が1つありました。それは、社会の時間で学んだ一人っ子政策の事です。実際に中国に行って分かった事があります。それは、本当に一人っ子の家もあるけど、兄弟がいる家もあるという事でした。兄弟がいる人は、別々に住んでいました。親や兄弟と別々に住むのは嫌だな、と思いました。

中国に行って、知らなかった事をたくさん知れて、色々あったけど楽しかったです。中国の人とも話すうちに、話せるようになっていったので良かったと思いました。

異文化に触れて

藤沢中学校3年 伊藤 瞳

私は今回の5泊6日の派遣に、日本とは違う異文化の市民生活や生活習慣また中国の一人っ子政策についてなど、実際に行って見て聞いて学んで来たいと思い、参加しました。

中国の料理は日本の料理と違って、味付けも油っぽかったり甘かったりうすかったりといろいろでした。食べられない物もあったけれど、餃子や肉まん、小籠包やワンタンスープなどといった普段日本で食べているものもありました。

中国の学校は、アメリカのように9月に進級するそうです。そして夏休みは部活がなく閑散としていました。又、グラウンドの草は新学期まで放っておくそうで、ぼうぼうの状態でした。

私がホームステイした家の^{シュエワン}雪文は、一人っ子でした。しかし他の子の家は兄弟がいるところもありました。けれど、一緒に暮らしているのではなく、一方は代わりに親戚に育ててもらっているそうです。私は3人姉妹で、ケンカなどもするけれどやっぱり兄弟がいると楽しいので、中国のように兄弟なのに一緒に暮らせなくてはかわいそうだなと思いました。



^{チュウシュエワン}
朱雪文 & 伊藤瞳

又、中国の家は、外見はそれほどでもなかったけれど室内はきれいで、びっくりしました。そしてお風呂は日本と違い、トイレと一緒にした。又、湯船はなくシャワーだけで全面ガラスだったので最初は驚きました。

そして私は中国の交通状況にも驚きました。例えば、赤信号でも信号無視して走っていったり、バイクに3人で乗っていたりと日本でやっていたら捕まるようなことを中国では普通にやっていたからです。それとなんといても車の多さにびっくりしました。道を渡るのにも命がけというぐらい多かったです。



上海にてみんなで

最後の夜は、お別れ会をしました。日本と中国、それぞれの特技などを見せ合いました。中国の人は、歌と踊りを皆で披露した後、琴と笛を得意な子がやってくれました。とても上手でした。私達は、全員で「よさこいソーラン」を踊ったり、歌ったりしました。その練習の中で一緒に行った入間市の8人と仲良くなれたという事も今回の良い思い出の一つになりました。

そしてもう一つ、私は、小さい頃からやっていたバトンを向原中学校の友達と一緒に踊りました。中国にバトンというスポーツは無いそうで、とても喜んでもらいとてもうれしかったです。

今回中国に行きホームステイをして、初めは会話はどうやってするのかなどといった不安がいっぱいあったけれど、自分がジェスチャーなどを交えながら話しかけてみたらなんとなく分かってくれ、会話ができるようになっていきました。

今回の中国文化体験は、初めての事ばかりで大変だったけれど日本では経験できない中国ならではの事ができたので良かったです。又、日本が安全できれいで住みやすい国だと再認識できました。そしてこの経験をこれからの生活に生かしていける様に頑張りたいと思います。

中国に行って

東町中学校2年 望月 美紀

私は中国に行って感じたことがたくさんありました。

私が泊まった家はすごく大きくて綺麗な家で、集合住宅でした。家にいって、どこに荷物を置いたりすればいいか迷っていたら「どうぞ。」と一部屋貸してくれました。クーラーもついていて綺麗な部屋でベットもあってとても快適でした。お風呂はシャワーだけでしたが、トイレは紙をながしても平気なところだったので日本とあまり変わらず良かったです。でも、中国は電力不足なので夕方や夜になってもリビングは小さい電気だけで部屋全体が暗かったです。

中国の子は日本の子よりも英語ができると聞いていたのですが、私がホームステイした家の^{タンタン}唐塘は少ししか英語ができなかったのでジェスチャーや紙に漢字などを書いたりしていました。やっぱり、言葉が通じないというのはどこの国に行っても不便だと思いました。



^{タンタン}唐塘 & 望月美紀

食べ物は、日本よりも油っこいものと、甘いものが多く、食べられるものが限られてしまいました。でも海老やかニ、スープなど、とても美味しかったです。ウサギも食べました。唐塘の家の食事は、朝はたいていおかゆや目玉焼き、夜はかニや海老、野菜やスープが多かったです。

皆でどこか見学をする時は、中国の子と英語で話したり中国語を覚えてもらったりしていました。

溪口では滝や湖をみたりしました。滝の横には大きな字が彫ってありました。湖はすごく綺麗で、山もあってとても印象深いです。

他にいろんなところを見学しました。中国の歴史が大きな形となって残っているのがすごいと思いました。細かいところまでいいに造ってあって流石中国だなと思いました。

五日目は上海に泊まりました。上海は日本の東京六本木や渋谷に負けないくらい大きなビルや建物がいっぱい並んでいて、すごく経済や文化が発展していて、予想以上にすごかったです。でもやっぱり貧富の差が激しいのか家も職もなく、生活もままならない人がたくさんいました。

今回初めて海外旅行に行くととてもいい体験ができたので良かったと思います。日本とは違う文化や食事、生活など、他国のことを今までよりもずっと知ることができたと思います。今までの自分の中の中国のイメージがまったく変わりました。

今まで想像していたのは「経済面でも、生活面でも日本よりも遅れている。」というイメージをもっていました。今では中国も日本と肩を並べるくらい、もしかしたら、それ以上にレベルの高い国になっているのではないかと思います。



お別れ会で習字を披露

たしかに、貧富の差や衛生面での管理などは、日本の方が遥かに上だと思います。ですが、今の中国はどんどん発展していて、それもすごいスピードで変わって行っているのです。そのうち日本は追い抜かされてしまうのではないかと思います。日本は、もっと他国のいいところを見習ってどんどんいい方向へ発展して行けばいいと思います。私は今の生活に不満があったりすることもあるけれど、でも日本の私達の生活は恵まれているんだなと思います。

中国の思い出

東町中学校2年 大井 由夏

中国に行って一番印象に残っているのは、貧富の差と食文化と人々のエネルギーに満ちあふれた生活の姿でした。

ホームステイをした奉化市も、その一つなのだと感じましたが、5日目に行った上海は、自分自身の経済力だけでは生活できない人達が、街のあちこちに沢山いました。日本にもそういった路上生活者がいる事は知っていましたが、物ごいする人を間近で見るのは初めてだったので、同じ人間なのにとすると、心が痛みました。日本も中国も、そういった弱者を、政治の力で助けられると良いのになあと感じました。しかし、その様に暮らしている中国の人の中の一部には、普通に生活できるのに、わざとボロボロの服を着て物ごいする人もいるらしいと知りました。



ホストファミリーと



ホストファミリーのリビング

中国の料理は、油っこかったり、甘い味付けだったりして、もたれる様な気がしました。特に、ホームステイをした奉化市の料理がそうでしたので、初日は余り食欲がありませんでした。ホストファミリーのお母さんは、そんな私を心配して下さって、私の好物を聞いて、翌日の食卓には、海老やかにが沢山並びました。とってもおいしくて、全部たいらげると、すぐ又、その料理が出てきましたが、いくら好きでもさすがにおかわりは無理でした。

また、日本人は、海老やかにの料理を食べる時、殻は口から箸でつまんで、皿にかくす様に置きますが、中国の人は、口からそのままテーブルの上に吐き出していました。私は、平然をよそおいましたが「こんなのあり～」と少しショックでした。私もお母さんに言われて殻をテーブルの上におきましたが、さすがに吐き出すのはやめました。食事のマナーも、その国の特徴が出るものだと感じました。

私のホストファミリーは両親と子供1人の3人家族でした。弟、祖父母もいましたが、同じマンションの違う階に住んでいました。やはり、中国の一人っ子政策が関係しているのだと思いました。マンションは、外は古いのですが、家の中はとても広く、豊かな生活をしていると感じました。なので、最初は緊張していましたが、自分の家の様にくつろげ、いつの間にか魔法の様にとけていきました。ホストファミリーは、3人とも、とても英語が堪能で私のかたことの英語も理解しようとして下さいました。^{ティエンティエン}天添ちゃんは、とっても優しくて私の事を気づかせてくれました。中国で14才の誕生日を迎えた時も、プレゼントをくれたり、誕生日パーティーをしてくれました。田代さんが食あたりを心配してくれたけど、アイスもケーキも日本の様においしかったです。



大井由夏 & ^{マオティエンティエン}毛天添

奉化市の沢山の名所や、中学校、高校、図書館なども見学し、建物の違いや生活環境の違いを感じましたが、昔の人の生活の知恵は、万国共通なのだと思います。

最後の上海は、忘れられない一番の思い出となりました。学校も学年も違う人と沢山おしゃべりしたり、買い物で値切りまくったり、明け方まで起きていたりして、もっと中国にいたいなあと感じた瞬間でした。

今回の派遣事業は私にとって、充実した思い出となりました。そして、日本がもっと世界の人々に愛され、沢山の国と仲良くできたら良いのにと心から思いました。そして、大人になったら、また、いろんな国を旅行して、いろんな国の人と仲良くなりたいたいなあと思いました。

中国の地に立って

東金子中学校3年 廣瀬 悠里

私が最初に中国の地に立った時、これから本当にホームステイが始まるのだと改めて思った。

中国の税関を通る時、税関の人は雑で表情も無く無愛想だった。その時私は皆そのような感じの人なのだろうかと不安だった。しかし、そうでもなかった。ホストファミリーの人たちと対面した時その不安だったものが溶けた。なぜならホストファミリーの人たちはとても明るく優しくすごく元気だったからだ。私は心の中ではすごく驚いた。なぜなら私が皆冷たいのだろうと思っていたことが外れたからだ。この時私はこれからの生活をやっていけそうだと思った。

ホストファミリーと会話をする時、両親は英語がしゃべれず会話ができなかった。なので自分で会話方法を考えた。紙に漢字を書いて会話をする方法だ。試してみたら通じたのでそれで会話をすることにした。^{ウーチン} 泸晶は英語が通じたので困らなかった。



廣瀬悠里 & ^{ワンウーチン} 王泸晶

私が感じた中国の文化と日本の文化の違いの一番はトイレだ。日本のトイレは紙を流すが中国のトイレはトイレの横にゴミ箱がありそこに捨てるのだ。母が韓国に行った時もそうだったと聞いた。なのでいかに日本人が清潔好きで下水道が整備されているか改めて思った。

それと街の空気だ。私が行った所の街の空気はすごく汚い。異様な匂いもしていた。この匂いはどこからきているのだろうか。日本では感じられない独特の匂いがした。排気ガスといい、よどんだ空気といいとにかく匂いが気になった。

ホストファミリーの家はものすごく広かった。床が大理石でキッチンも広かった。一番困った事はお風呂だ。トイレとお風呂は一緒だった。でも浴槽はなくシャワーだけだった。狭いので体がうまく洗えなかったのが困った。中国の料理はおいしかった。中国の食事は全般的に甘かったのをよく覚えている。日本の味とは少し違っていた。

中国の子は皆、携帯電話を持っていた。今中国は携帯電話が普及し始めている。しかしメールはあまりせず、電話が多かった。日本ではメールも電話も多いのでそこが違うと思った。しかし全国共通で通信ができる時代になってきたと改めて実感した。

中国では警戒心が強いのか、すごく警戒している様子が目立った。例えばバイクに少しでも当たったら警報がなるし空港の持ち物検査でも金属が少しでもあると鳴ってしまう。どうしてだろうと思った。

一番印象に残っているものは上海に行った時の事だ。みんなで買い物をしていた時、スリの現場を目撃した事だ。その人は少し前にすれ違った人だった。すごく怖かった。それでみんなで離れないようにして歩いた。中国の人は日本人が物を買う時高く売ってくる。それを知っていた私たちは原価まで値切って買った。すごく楽しかった。

私は今回この異文化体験派遣に参加して、日本と中国の生活や文化の違いが分かって良かったと思う。この思い出は一生心に刻まれていくと思った。これから中国のことに触れる機会があるごとに、今回の経験を生かし中国のことを理解していけたらと思う。そして他の国とも交流を深めて仲良くなれたらすごくいいと思った。来年中国の人が来た時皆で暖かく迎えようと思った。

中国に行って

豊岡中学校2年 荒川 真帆

私は、8月17日から8月22日まで、中国の奉化市にホームステイに行ってきました。

中国に着いて、初めに思った事は、自動車や車、バイクが多いなということです。車が走っている道路を普通に自動車が走っていたり、歩行者用の信号が無いので車の間を人が横断していたり、かなり危なかったです。

でも、私が一番驚いたのは、人力車がとても多く走っていて、自分の家の車やタクシーより身近に乗る乗り物で、料金も3元（日本円で約57円）と、とても安く楽しかったです。

私がホームステイさせていただいた周貝貝ちゃん^{ジョウベイベイ}の家庭は、どちらかという^{ジョウベイベイ}と裕福な家庭でしたが、日本と違って、浴槽が無く、シャワーとトイレと洗面所が一部屋にありました。しかも、トイレは、ペーパーを流せなかったのですが、最初は日本の感覚で、よくペーパーを流してしまいました。

それから貝貝ちゃんの部屋は結構広くて、私に部屋を貸してくれました。部屋には、日本のマンガが置いてありました。特に、『ドラえもん』と『名探偵コナン』が好きらしくて、『名探偵コナン』はDVDが3枚もありました。それから、歌の『浜崎あゆみ』（中国語読み『ピーチーブー』）を知っていて、曲を聴かせてくれました。全部日本語でした。



荒川真帆 & 周貝貝^{ジョウベイベイ}

朝食はおかゆでしたが、ほとんどは外食で、しかも、量も多いし油がすごいのであまり食べられませんでした。ですが、果物は、すごく美味しくて沢山食べてしまいました。それに、奉化市は桃の産地らしくて、桃が特に多く売られていました。

それから、人力車とバイクに乗りました。人力車に乗るのは初めてで、1kmか2kmぐらいなら3元ぐらいで乗れました。車の通る道路を走るの、最初に乗った時は怖かったけれど、運転手の人みんな上手で、安心して楽しく乗れました。バイクは、3人乗りをしました。私と貝貝のお父さんと貝貝の3人です。バイクに乗るのも初めてだったけど、やっぱりお父さんの運転は上手でした。でも、ヘルメットを誰一人着けていないので、できればかぶってほしいです。

中国に行ったら、水道水やアイスは食べないでね！と言われていました。水は飲まないでね、とホストファミリーに言われていましたが、アイスは全然大丈夫で、家族みんなで美味しく食べました。でも、食べるのに少し不安がありましたし、水道水は飲めませんが、見た目はキレイでした。しかし、外に流れている川は、とっても汚くて、かなり臭かったです。それを見てからは、やっぱり飲む気にはなれませんが、カニやエビなど、あんな汚い水の中に居たと思うと食べる気がしませんでした。

そんな事を思っているうちに、あっという間に4日間が過ぎてしまい、ホストファミリーとのお別れの日がやってきました。

ホストファミリーは、すごくやさしくて親切で、本当の家族のように接してくれました。本当に感謝しています。



歓迎会では中国語で挨拶

私がこの夏中国にホームステイして学んだ事は、数えきれないほどあります。でも、一番良く分かった事は、同じ人間であるし、すごく愛情を持っていた事です。昔から、日中は戦争や政治でも沢山もめてきて、両国とも、悪い印象をあたえて来ましたが、実際に中国に行ってみて決して悪い国ではないし、心の温かい人達だな、と思いました。

私が中国に行って体験した事は、とても価値のある事でした。

今回、ホームステイさせていただいた家族のみな様と、市役所の方々に深く感謝申し上げます。

貴重な体験

河野 靖子

体験を終え、望月美紀さんの書道実演中、王璐さんの吹奏する美妙的なコルスのメロディが会場に響き渡ったあのシーンが、今でも頭の中に浮かびます。まるで古くて長い川の流れから飛び散った一滴の水玉のようで、感慨無量です。

お別れ会では、司会担当の両市中学生2人が歩調を良く合わせていました。派遣団員の合唱をメインテーブルから励ましていた団長の田代高久氏をステージに押し上げて、一緒に歌っていたリーダーの川合彩香さん等4人が途中目で合図しながらステージからこっそり降りて、皆を笑わせました。そして、美しい中国民族舞踊、古箏演奏と新鮮な日本のバトン、素敵なバレエ「海賊のバリエーション」などなどが披露されました……。

「来年入間市で会いましょう」と冷めることのない余韻を残し、派遣団員全員が、無事に健康で入間市に戻りました。



溪口にて

振り返ってみて、どうしても書きたいことがあります。

まず、団長が冒頭の自己紹介を、荒川真帆さんが歓迎会とお別れ会の際の挨拶を、中国語でしていたことです。このことは、入間市中学生中国文化体験訪問団員が真剣に中国文化生活を体験しようとする気持ちを奉化市の人々に伝えました。

私は、両市間の中学生派遣の趣旨について共通の認識を持ちえたことを、奉化市の皆様の肅然とした表情から確かに読み取りました。

次に、訪問団員である中学生達の素顔と行動力が印象的でした。

今、中国の家庭では、一人の子供が親二人と祖父母四人の愛を一身に受け、先生にも大変期待され、自分の意思と周りの期待の狭間でどうすれば良いのか戸惑っている現状があります。そんな中で、今回、入間市からの訪問団員の中学生達は、「yes」、「no」がはっきりしていて、自分の主張をキチンと伝えていたことを対照的に思いました。

又、混雑している上海で、ペットボトルを集めて換金していた貧乏なお婆さんに同情した中学生達の顔が、今も私の記憶には深く刻まれています。集合場所に戻った後、水上千夏さんと黒石みなみさんは、離れたところにいたあのお婆さんに、わざわざペットボトルを渡しに行きました。これらのとても優しい行動に、私は胸を打たれました。人々が皆、このような暖かい人間的な温もりの心を持てば、世はもっと明るいでしょね!?

尚、豫園でショッピングした時に中学生達は、日中英3ヶ国語でやり取りして120元の品物を、中国人さえ滅多に出来ない驚きの20元の値段で手に入れるということもやってのけました。

勿論、中学生達の体験は楽しいことばかりとは限りません。トイレ・お風呂、混雑した交通事情、飲み物・食べ物等慣れない体験、上海の路地でつきまとうセールスの人に恐怖を感じる一場面もありました。



李先生と

この一週間、色々貴重な体験をしたと同時に、中国の人々に伝えられたものも、少なくないでしょう。このような生活体験は、次代の国際交流を担う両市青少年達にとって、決して無駄にならないと思います。

中学生だからこそ

田代 高久

当市の中学生が、友好都市である奉化市の中学生宅にホームステイをし中国文化を体験する「中学生中国文化体験訪問団派遣事業」は、一昨年度に続いて2回目の実施となった。

派遣された中学生は、生活習慣も食習慣も異なり、言葉も満足に通じない中で、大きな驚き・戸惑いを感じていた様子であった。それが、出発前の彼女らの予想を大きく超えていたことは、想像に難くない。慌しく過ごした派遣期間だけでは、自らの異文化体験を充分には咀嚼し切れなかった者もいると思われる。

でも、だからこそ、中学生を派遣して良かった、と考える。豊かな感受性により得たものを、今はまだ霧の中にある将来に活かすことができるのは、中学生だからこそである。

帰国後、彼女らの感想の中に、こういったものがあった。

- ・日本が安全できれいで住みやすい国だと再認識できました。
- ・日本の私達の生活は恵まれているんだなと思います。
- ・私は今ある生活の大切さを学びました。

中国では、水道水は飲めない、交通マナーは日本とは大きく異なる、特に上海では犯罪が頻発する、と聞いていた。私は滞在中、病気・事故・盗難等に一方ならぬ気を遣っていた。普段の日本での生活においては殆ど考えもしないことであるが、実際に、自動車は飛ばしていたし、上海では目の前でスリが現行犯逮捕されていた。



周副市長(中央)・何校長先生と

そんな中で最も危惧していたことは、「日本は進んだ良い国」「中国は遅れた悪い国」といった理解の仕方を、彼女らがしてしまうことであった。しかし彼女らは、

- 日本は、もっと他国のいいところを見習ってどんどんいい方向へ発展して行けばいいと思います。
- 日本がもっと世界の人々に愛され、沢山の国と仲良くできたら良いのにと心から思いました。
- 他の国とも交流を深めて仲良くなれたらすごくいいと思った。
- これから中国のことに触れる機会があるごとに、今回の経験を生かし中国のことを理解していけたらと思う。
- 大人になったら、また、いろんな国を旅行して、いろんな国の人と仲良くなりたいなあと思いました。

と述べ、その考えを杞憂とした。

また、一人っ子政策により兄弟が別れて暮らしていることに胸を痛め、そして、

- 来年中国の人が来た時皆で暖かく迎えようと思った。
- 来年、中国の中学生が日本に来る時には、日本料理や日本の文化などたくさんの事を知ってもらいたいと思います。

と記している。

この言葉にあるように、来夏、奉化市の中学生がより良い入間市体験・日本体験をできるよう、今回派遣された中学生自らが、中国で感じたことを活かして彼女らを受入れることが、異文化理解であり、奉化市との友好関係の発展に寄与するものである、と強く感じた。



溪口での記念撮影

写真集



杭州空港着

溪口での
記念撮影



藤頭にて





奉港中学校の
朋友





お別れ会

リハーサル



「愛唄」を合唱



上海「豫園」で